

医学教育分野別評価

2023 年度 年次報告書

医学教育分野別評価の受審：2018 年度（平成 30 年度）

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 35



令和 5 年 8 月

宮崎大学医学部医学科

はじめに

本学医学部医学科は、2018年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2019年6月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35 を踏まえ、2022年度の年次報告書を提出する。

なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2022年6月1日～2023年5月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.35 の転記は省略した。

1. 使命と教育成果

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.2 大学の自律性および学部の自由度
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
カリキュラムについて検討する際に、教授以外の教員、幅広い学生からの自由な意見を反映することが期待される。	
改善状況	
学生会の会長と副会長が委員として出席している教育プログラム評価委員会において、定期試験時間割における科目の配置バランスについて意見が出され、今後は、定期試験時間割の初案を作成した段階において、学生委員に初案を提示し、再調整の要否を照会することとした。	
今後の計画	
今後も教授以外の教員、幅広い学生からの自由な意見を集めながら反映させる。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1 令和5年度教育プログラム評価委員会議事要旨	
資料2 定期試験日程調整に関する申合せ	

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修成果を周知するような取り組みを実施すべきである。	
改善状況	
「医学研究者育成コース」及び医学科3年生の「研究室配属」で得られた学修成果を周知する「研究成果発表会」を実施した。さらに、研究室配属において海外派遣となった学生についても成果報告会を実施した。	
今後の計画	
今後も学修成果を周知するような取り組みを継続して実施する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3 令和4年度第8回医学研究者育成コース研究発表会プログラム 資料4 令和4年度研究室配属海外派遣報告会	

改善した項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生がとるべき適切な行動について、学則や行動規範に記載すべきである。	
改善状況	
年度始めの各学年のオリエンテーション資料において、学修上の注意事項をまとめて周知している。 全学の宮崎大学教育委員会と連携し生成系A Iの学習上の利用について検討した。(6月20日に学生へ周知済み。)	
今後の計画	
学生が取るべき適切な行動について、オリエンテーションや学生向けポータルなどを通じて指導を徹底していく。	
改善状況を示す根拠資料	

資料5 医学科：オリエンテーション配布資料

資料6 宮崎大学における生成系 AI の学習上の利用についての考え

2. 教育プログラム

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
シラバスを充実させ、学生にとって使いやすいものにすべきである。	
改善状況	
全学の宮崎大学教育委員会と連携し、シラバスの記述状況を点検している。シラバスには、授業概要、育成する資質・能力、学習目標、授業計画、成績評価方法、成績評価基準、教材などの記載欄があり、学生自ら学習に取り組めるものとなっている。	
今後の計画	
今後もシラバスの点検を通じて、シラバスを充実させ、学生にとって使いやすいものに改善していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7 2023年度シラバス記述状況について	

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
生涯学習に繋がるカリキュラムとして能動的学修を構築することが望まれる。	
現在の状況	
生涯学習に繋がるカリキュラムとして能動的学修の構築に向け、まずは教職員を対象に主体的に学ぶ能力をみにつける医学部教育に効果的なアクティブ・ラーニングを導入する	

ためのFD研修会を開催した。
今後の計画
生涯学習に繋がるカリキュラムとして能動的学修の構築に向けた活動を継続していく。
現在の状況を示す根拠資料
資料8 宮崎大学医学部FD研修会ポスター

改善した項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的技法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習の現場で活用できるEBM教育を充実すべきである。	
現在の状況	
基礎教育科目「感染と免疫」、基盤形成科目「チュートリアル～症例から学ぶ～」を開設し、科学的根拠に基づいた論理的思考と科学的検証により、デマ、フェイクニュース、煽りに誤誘導されないリテラシーを身につける講義を行っている。	
今後の計画	
今後も臨床実習の現場で活用できるEBM教育を充実させていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料9 2023シラバス_感染と免疫	
資料10 2023シラバス_チュートリアル～症例から学ぶ～	

改善した項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
「早期大学病院実習」、「早期地域医療実習」、あるいは「公衆衛生学実習」など、患者・住民と接するすべての実習前にワクチン接種を徹底すべきである。	
改善状況	

インフルエンザ流行時期を前に、クリニカル・クラークシップ I・II に参加する臨床実習生を対象にインフルエンザワクチンを接種した。
今後の計画
今後もワクチン接種の徹底をはかる。
改善状況を示す根拠資料
資料 1 1 令和4年度インフルエンザワクチン接種要項

改善した項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
卒業生が将来働く環境からの情報や地域や社会の意見を取り入れて、カリキュラム委員会が教育プログラムの改良を進めることが望まれる。	
改善状況	
学外の実習病院が参加する臨床実習教育協力病院連絡協議会において、6年間のカリキュラムを説明し意見を求めた。	
今後の計画	
引き続き、卒業生が将来働く環境からの情報や地域や社会に意見を求め、カリキュラム委員会が教育プログラムの改良を進めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1 2 令和4年度臨床実習教育協力病院連絡協議会次第、資料 1-1	

3. 学生の評価

改善した項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
低学年から知識のみならず、技能及び態度を含む評価をより確実に実施すべきであ	

る。
改善状況
1年次の5月～6月に実施する早期大学病院実習において、実習生の服装・挨拶・言葉遣い・実習目的の理解・実習中の態度などを評価している。
今後の計画
今後も低学年から知識のみならず、技能及び態度を含む評価をより確実に実施していく。
改善状況を示す根拠資料
資料13 早期大学病院実習ルーブリック評価票

改善した項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
評価をより精密に吟味するために、外部の専門家の参画を促すべきである。	
改善状況	
学生の臨床実習を含む地域医療教育に協力する学外の医療機関等にて活躍する多職種指導者に対し、地域医療教育マイスターの称号の付与し、地域医療実習の指導体制を強化し、地域医療教育を更に充実させている。	
今後の計画	
評価をより精密に吟味するために、外部の専門家が積極的に参画できる取り組みを継続していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料14 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与規程	
資料15 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与実施細則	

改善した項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準	判定：部分的適合

改善のための助言
評価方法の信頼性と妥当性を組織的に検証し、明示することが望まれる。
改善状況
各授業科目の評価方法は、シラバスに明記されており、その記載状況は教務委員会が宮崎大学教育委員会と連携し点検している。
今後の計画
今後もこの取組みを継続し、評価方法の信頼性と妥当性を組織的に検証する。
改善状況を示す根拠資料
資料7 2023年度シラバス記述状況について

改善した項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
	外部評価者の活用を進めることが望まれる。
改善状況	
	学生の臨床実習を含む地域医療教育に協力する学外の医療機関等にて活躍する多職種の指導者に対し、地域医療教育マイスターの称号の付与し、臨床教育の指導体制を充実させている。
今後の計画	
	今後も外部評価者の活用を進める取り組みを継続していく。
改善状況を示す根拠資料	
	資料14 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与規程 資料15 宮崎大学医学部医学科地域医療教育マイスター称号付与実施細則

4. 学生

改善した項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
低学年での留年率を改善するために、学修上の問題を抱える学生に対する支援体制を強化すべきである。	
改善状況	
全学の宮崎大学教育委員会と連携し、学期毎のGPAや1年次で履修する基礎教育科目の単位修得状況等から、学業不振の状況及び長期欠席等の問題を抱える学生を早期に把握し、面談を行うなど対応している。	
今後の計画	
今後も低学年での留年率を改善するために、学修上の問題を抱える学生に対する支援体制を強化していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料16 学業不振の状況及び長期欠席等の問題を抱える学生の把握と対応に関する調査	

改善した項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムの管理に係る委員会に学生が参画すべきである。	
現在の状況	
教育プログラム評価委員会においては、これまで学生会から会長が委員として参加し、医学部の教育プログラム全般の評価に関する審議に加わっていたが、さらに学生会から副会長（1人）も参加できるよう規程を改正した。	
今後の計画	
今後も教育プログラムの管理に係る委員会に学生が参画できるようにする。	
改善状況を示す根拠資料	

5. 教員

改善した項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教員の教育活動を確実に評価すべきである。	
改善状況	
令和4年度宮崎大学教員教育活動表彰で、医療人育成支援センター講師1名が表彰を受けた。	
今後の計画	
引き続き、教員の教育活動を確実に評価する制度の充実をはかる。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1 8 令和4年度宮崎大学教員教育活動表彰通知	

改善した項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
個々の教員がカリキュラム全体を確実に理解できるような方策を講ずるべきである。	
改善状況	
新入生の教育課程表を教授会に提出し、審議している。さらに臨床実習教育協力病院連絡協議会においても、医学部医学科6年間の教育課程を説明している。	
今後の計画	

今後も個々の教員がカリキュラム全体を確実に理解できるような方策を講じていく。
改善状況を示す根拠資料
資料 1 9 教授会次第（3月） 資料 1 2 令和4年度臨床実習協力病院連絡協議会次第

6. 教育資源

改善した項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
患者および学生の安全のために、患者と接するすべての実習前にワクチン接種を徹底すべきである。	
改善状況	
臨床実習生（243人）を対象としたインフルエンザワクチン接種を実施し、168人に接種をした。	
今後の計画	
今後も患者および学生の安全のために、患者と接するすべての実習前にワクチン接種を徹底していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1 1 令和4年度インフルエンザワクチン接種要項	

改善した項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
講義資料の事前配信など、自己学修を促進するための情報通信技術の活用が望まれる。	
改善状況	

臨床現場において必要な情報が網羅され素早く確認できるように医学科学生に対して電子教育ツール「今日の臨床サポート」を導入した。
今後の計画
今後も講義資料の事前配信など、自己学修を促進するための情報通信技術を活用していく。
改善状況を示す根拠資料
資料 2 0 教授会次第（5月）

改善した項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
国内の他の教育機関との交流を積極的に進めるべきである。	
現在の状況	
東京慈恵会医科大学と包括的連携協定を締結し、2020年度（令和2年度）から臨床実習生を交換（2022年度は28名派遣、2名受入れ）している。さらに、長崎大学医学部と臨床実習教育の協力に関する協定を締結し、長崎大学に在学している宮崎県卒の実習生を本学部附属病院で1名受け入れた。	
今後の計画	
今後も国内の他の教育機関との交流を積極的に進めていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2 1 包括連携協定に基づくクリクラ希望受付	
資料 2 2 長崎大学医学部と宮崎大学医学部の臨床実習教育の協力に関する協定書	

改善した項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	

課題として挙げられている「原級者（留年者）」数と国家試験合格率について、検討し対応すべきである。
現在の状況
教育プログラム評価委員会において、進級条件となっている試験と医師国家試験の結果との関係について検討している。
今後の計画
引き続き、課題として挙げられている「原級者（留年者）」数と国家試験合格率について、検討を重ねながら対応していく。
改善状況を示す根拠資料
資料 2 3 令和 4 年度第 2 回教育プログラム評価委員会次第

改善した項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
学生と教員からフィードバックを系統的に求めた上で、その結果を確実にプログラムの改善につなげることが望まれる。	
改善状況	
教務学生連絡協議会の定期開催を通じ、学生会がとりまとめた意見やアンケート結果が教員にフィードバックされる運営体制が整備され、学生会によるカリキュラムアンケートの結果が加味されたカリキュラムの改編案が作成され、教務委員会及び教授会での審議を経て令和 4 年度に実施された。さらに、教育プログラム評価委員会においては、学生委員から定期試験時間割の科目の配置について意見が出され、試験時間割（初案）を作成したあと、学生委員に提案し、再調整の可否を照会することとした。	
今後の計画	
今後も教務学生連絡協議会等を通じた連携を強化し、学生からのフィードバックを系統的に求めてプログラムの改善につなげていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2 定期・再試験の日程調整に係る申し合わせ	

改善した項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
学修成果とカリキュラムに関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。	
改善状況	
教育プログラム評価委員会において、カリキュラムの改編とOSCE・CBTの成績や国家試験合格率等の関係について検討をしている。	
今後の計画	
今後も学修成果とカリキュラムに関して、学生と卒業生の実績を継続して分析していく	
改善状況を示す根拠資料	
資料24 カリキュラム改善経過表	

改善した項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準	判定：部分的適合
改善のための助言	
学生の実績についての分析結果を、学生の選抜に関する委員会やカリキュラム委員会及び学生カウンセリングに関わる委員会にフィードバックすることが望まれる。	
改善状況	
学生の実績について、副学部長（教務担当）が入試制度の見直しを視野に入れた分析を行い、その結果を教授会に報告した。	
今後の計画	
今回の報告から議論を深め、その結果を学生の選抜に関する委員会等へフィードバックを行い、入学者選抜方法の改善等につなげていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料25 教授会次第（6月）	